

なかぶ 中部自治会(鶴形) 26世帯
小林 孝たかしさん(70歳)



集会所の屋根を直す各地区の自治会長たち



「鶴形の地域づくり活動に協力しています」

ここは鶴形の中央部にありますが、過疎高齢化が進んでいます。それでも昨年は花見バス旅行で角館の桜を見て打当温泉で楽しんで来ました。

祭典では子供会が中心となり、40年以上にわたり子供みこしが自治会内を巡行しています。後日、海や山でのレクリエーションも行っています。

去年、オリンピックに合わせ4年に1回の鶴形地区の運動会が開かれ、縄ない競争や綱引きなどのゲーム的な種目を取り入れました。参加者は車座になって焼肉など食べ、懇親を深めました。

地域一体で取り組んでいる各種行事、特にそば祭りなどには自治会員が積極的に参加するようにしています。課題は集会所が老朽化し外壁や設備などの補修に多額の経費が必要で、17年度から市で行う補修費助成利用について、話し合っているところです。今年の大雪で屋根がつぶれ、各自治会長たちで何日もかかって復旧工事をしました。

まちかど

ウォッチング



3月6日、アリナスで能代市障害者スポーツ・レクリエーションが行われました。参加した皆さんは和やかな雰囲気の中で、楽しそうにさまざまなスポーツを楽しんでいました。

いつも元気



「のびのび少年教室(おはなし会)」
中央公民館

のびのび道遙 歴史と民俗のあいだ

馬の絵(五) 「轟・神明社(一)」

轟の神明社にある絵馬です。大正四年十二月に朴瀬の人が奉納したものです。この神明社は、太神宮とも称されますが、本殿の脇に相染様を祀っています。神社の境内には石造りの馬が一頭立っています。ここでは平成六年まで相染講がつづけられていました。大正四年に馬頭講として始まり、十五人くらいの講員がいましたが、戦後は積立をしながら二泊三日くらいの旅行もおこなっていました。平成になってから次第に講員も少なくなり、御神体を神明社内に移して閉講としています。

左の絵馬は、親子馬の絵です。上手とはいえませんが、親馬に添う子馬の足取りは、親子の愛情を表現しているのでしょうか。これは今まで見てきたような神に奉納する神馬ではなく、馬産の成功を祈る絵馬でしょう。東雲台地は放牧地として好適な条件を具備していました。

最近の研究で、黒ぼく土の分布と放牧地の分布が一致していることが確認されています。そこには稲・粟・麦のほか、ススキ・ヨシなどのイネ科の植物が多く生育し、樹木などよりは芝草の繁茂が見られるということですね。東雲台地はまさにその条件を備えていたわけで、馬が草を食む広々とした草原でした。(古内)

